



MWS Cup 2020

事前課題振り返り



事前課題とは

サイバーセキュリティに関連する
研究開発・実務・教育等において、
多くの人が使いたい・欲しいと思う、
あるいはコミュニティを活性化させる
オープンなツールやデータセットを開発する
ハッカソン



2020年のテーマ

- 企画委員が過去の事前課題成果の現状を調査
 - 実用されているか、開発が継続して進化しているか
 - ほぼ全て、MWS Cup のために作られ、忘れ去られていた



2020年度は、

継続的に利用・改良されること（継続性）と

MWS 以外のコミュニティ・社会へ貢献を特に期待

- 「既存の OSS ツールやデータセットの改良」 歓迎
- 新規に独自ツール・データセットを開発する場合は、先行のものに対するアドバンテージを明確にし、継続的な発展の道標となるロードマップも成果に含むこと



要件

- 成果は下記3点の要件を満たしてください。
 1. 成果のツールやデータセットを GitHub 等で公開し、容易に利用・改良可能にすること
 2. チームで協力して成果を作ること
(メンバーの担当範囲をプレゼンで発表)
 3. 成果物による法令違反および倫理的問題がないよう検討・配慮を行うこと



審査基準

- 審査委員が下記基準に基づいて評価実施。加えて、プレゼン聴講者による投票
- **継続性と貢献**（MWS Cupのみだけでなく、継続的に広く業界・社会に貢献するか）
多くの人に必要とされ、容易に使えるツール・データセットで、継続して発展・改善していけるものは高評価
使用者・シチュエーションが限定的であればあるほど低評価
また、継続的に利用・改良するためのドキュメント、ロードマップが整っていれば高評価、そうでなければ低評価
- **新規性**（今までに無い成果か、新しい課題設定か）
今までに存在しておらず、かつそれが必要とされるものほど高評価
既存のツールやデータセットを少し改良したという内容では低評価
また、新しいことであっても課題設定に妥当性が認められない場合にも低評価



審査基準

- **実用性**（現存する脅威やデータに効果的か、実用に耐えうる完成度か）
現在の脅威に対して有効なもの、実データへの適用例も含むものであれば高評価
コンセプトコードしかない、データ量が極端に少ない、使用方法が複雑で使いづらいものなどは低評価
- **チームワーク**
チーム内で適切な役割分担が行えており、チーム全員が成果物をよく理解し PR できる状態であれば高評価
プレゼンやコミットログ等で分担範囲を説明
1人チームの場合は全体平均点を付与



2020年度優秀成果紹介

■ 事前課題優勝 & オーディエンス賞

- チーム 悪戦武羅 (あせんぶら)
- 販売者情報チェッカー
 - ✓ Amazon等の業者情報の正当性を調査するOSINTツール

■ 2位

- チーム WannaFly
- PhishingBlocker
 - ✓ ドメイン年齢と閲覧履歴を根拠としたフィッシング対策ブラウザ拡張

■ 3位

- チーム F.SE
- MADMAX
 - ✓ 機械学習を用いて悪性サイトを判定し防御するブラウザ拡張

- Slack の #mwscup にあるプレゼン資料をぜひご覧ください



アンケート結果共有

■ 事前課題取り組んだ時間

- 2時間～2ヶ月とさまざま
- 1～2週間のチームが多かった

■ 大変だったところ

- 新規性のあるアイデアを出すこと

■ その他、よかった点、よくなかった点

- 研究チックなものでなくとも評価されることが良い。
- 研究室のメンバーでものづくりができたので楽しかった。
- 設問の自由度が高いため、創造力を向上させる良い機会と感じました。
- あらかじめ評価点が明確でしたので取り組みやすかったとおもいます。



運営の振り返り

■ 成果発表セッション

- 時間オーバー

- ✓ 成果プレゼンは全チーム動画提出にする

- ✓ Q&A, コメントはSlackに書いてもらい司会が拾う形が良い

- オーディエンス投票の事前周知不足

■ 評価

- 複数審査員平均、順位点なしのため、
当日課題に比べて、あまり点差がつかない

■ 成果のPR不足

- MWS の Webサイトに資料・動画掲載や成果リポジトリへリンクを張る